

4 食育を広めるために

(1) 県や関係団体等の取組

ア 食育にかかる人材の育成

県民が食に関心を持って自ら行動することを促すために、地域の様々な場面で率先して普及啓発活動をしていただける人材の育成を図りました。

愛知県学校給食会は、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会などの後援により食育推進学校栄養職員研修会を開催し、学校栄養職員に学校給食における地域農産物の活用に重点をおいた知識の習得を図りました。

県は、食に関する知識や経験を持ち、食生活や栄養改善の話、伝統料理の実習や農業・漁業の体験活動などを行っていただける人を食育推進ボランティアとして登録し、地域や学校等からの要請に対応できるようにしており、研修やボランティアの活動報告会などを行って 437 名を育成しました。

農村輝きネット・あいちは、味噌づくりやしめ縄づくりなどを地域住民に伝えたり、小学校等で子どもたちに伝統料理などを教えることのできるグループ員を「輝きネット・あいちの技人」として認定しており、これまで 135 名を認定し、それぞれの技術を生かした活動をしています。

イ 食育ネットワークの構築

愛知県食育推進会議、愛知県、愛知県教育委員会は、平成 19 年 6 月 7 日に名古屋市にある愛知芸術文化センターで「みんなで進めよう あいちの食育県民大会」を開催し、2,158 名が参加して、プランの初年度として本県における食育の推進について気運を高めました。

県は、県農林水産事務所が主体となって、食育に取り組む関係者や地域住民が農業者と交流し、各地域の特色を活かした食育を推進していくことを促すため、市町村等との協力により県内の 7 地域で「食と農の交流フォーラム」を開催し、地域に根ざした食育がさらに活発となるように働きかけました。



豊田地域「食と農の交流フォーラム」

また、インターネット上に食育に関する総合情報サイト「食育ネットあいち」を平成 19 年 12 月 26 日に開設し、情報を適宜更新しながら内容の充実を図っています。

ウ 食育の普及啓発等

県内の J A（農協）では地産地消や農業体験等の活動が行われており、愛知県農業協同組合中央会は、愛知県の農業を紹介する冊子を小学 5 年生全員に配布し

たり、イベント等で稲作体験セットを配布して食料とそれを生産する農業の役割を理解・体験する「食農教育」を進めています。

県は、平成 19 年 2 月 28 日から 3 月 31 日の間に県民から食育標語を募集したところ、子どもの部・一般の部をあわせて 24,923 点の応募があり、その中から 6 点を表彰作品として選定し、表彰式や県のホームページに掲載するなどして食育の普及に活用しました。

また、平成 19 年度は、食の安全・安心を脅かすニュースが、新聞やテレビで連日のように報道されたため、平成 19 年 8 月に消費生活モニター 400 名（回答数：371 名）を対象に、食の安全・安心に関する意識や意見・要望等についてアンケート調査を実施しました。その結果、回答者の約 98%が食の安全・安心について何らかの不安を感じており、多くの人が事業者に対して使用する原材料の内容や品質について責任をもって確認して欲しいという回答をしました。

（２）県内における取組事例

市町村の食育推進計画の策定を記念した食育シンポジウムが開催され、住民へ食育実践の呼びかけが行われました。

また、愛知県発祥の食品関連企業 8 社が自主的に集まり、平成 19 年 10 月 22 日に「あいち食育サポート企業団」が結成されました。この企業団は、健全な食生活の実現と豊かで活力ある社会づくりに向けて、バランスのとれた食生活や地産地消などについて、店頭で独自のキャンペーンや県などと連携した活動を行っていくこととしています。

なお、愛知県統計協会主催の第 51 回愛知県統計グラフコンクールが開催され、小中学生が様々なテーマを取り上げた中で、体の健康や農作物の栽培、家庭から出るゴミなど食べることや食べ物について調査した結果を作品にしたものが多く見られました。